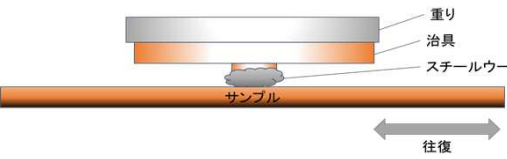
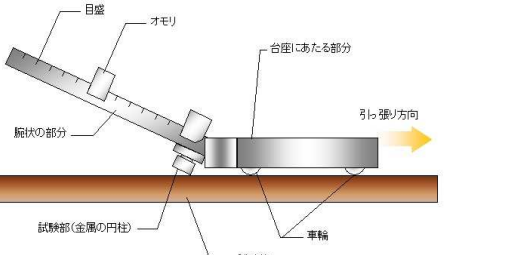



床用オレフィンシート、ナオスシート 一般物性試験結果

オレフィンシート…プラスチック樹脂の一種で、塩化ビニルと共に汎用プラスチックとされるもの。

オレフィンシート状にしたものが、オレフィンシートと呼ばれる。

塩ビと比較すると、燃焼時に有害な物質が発生しにくい。

評価項目	試験項目	適用規格	試験方法	規格	ナオスシート/SUS304	凸版 TFP-443 (0.16mm) /MDF (3mm) /合板 (9mm)	ナオスシート (0.23mm) /カーフロア (12mm)				
耐水性 (シートのみで試験)	耐水試験	JIS K 7209 A法 (吸水率) を元に 試験方法を簡易化 シート保管は常温下が 多い、また高温湿度の倉庫 も考慮しているため	簡易試験法 (実際の試験法) 10cm角にカットしたサンプルを常温水中に48時間浸漬後乾燥し、表面状態を観察する。 JIS K 7209 吸水率算出法 保護フィルム、剥離フィルムを剥がした76.2mm×25.4mmのサンプルを50℃のオープンで24h乾燥させた ものを、デシケーターで2h冷却し重量を測定した。23±1℃の蒸留水中にサンプルを2h浸漬し、取り出して 水分を拭取ったものの重量を測定し、浸漬前の重量と比較して、重量増加より吸水率を算出する。飽和吸 水率を求める場合の代表的な浸漬時間は24,48,72...時間である。	外観変化が軽微なこと	著しい変化無し	シートはTFP-443を使用 著しい変化無し	シートはTT-005を使用 著しい変化無し				
耐擦り傷	スチールウール試験	ASTM D 4752-03 Standard Test Method for Measuring MEK Resistance of Ethyl Silicate (Inorganic) Zinc- Rich Primers by Solvent Rub に準ずる 上記試験はMEKを含ませた 綿100%の布をひとの手でサ ンプルに50回擦り付ける試験 より過酷な環境下にするため に右の試験方法を取った 建材商品の表面物性を見る 試験としては一般的なもので ある。	#0000のスチールウールに500g/cmの荷重をかけて20往復摩擦したあとの表面を自視で観察。 スチールウールは約10mmppiにまとめ、表面が均一になるようにならしたものを使用した。 	外観変化が軽微なこと	著しい変化無し	著しい変化無し	著しい変化無し				
耐引っかかり傷	ホプマンスクラッチ試験	アメリカの塗料の表面強度 評価方法のひとつ。 建材向け化粧シート表面 の評価に多く使用される。 数値化しやすく、ネイル、コ インスクラッチ試験よりも個 人差がでづらい 建材メーカーでフローリング 表面の評価で使用されてお り、化粧シートメーカーもこ の評価法を取ることが多い。	化粧材表面に対して45°の角度で接するようにスクラッチ刃 (φ7の円柱形の刃) をセットし、試験機を化 粧材上で移動させた。徐々に荷重 (錘) を高めていく。200~2000g 荷重 (200g 刻み) にて引っかかり 	1200g クッションフロア上に施工した場合、 クッション素材の影響で性能低下する ため ナオステック規格	1200g	1400g	1400g				
耐摩耗性	摩耗試験	フローリングの日本農林規 格 複合フローリング 第四条 耐摩耗性 摩耗A試験	試験装置の回転盤に水平に固定し、研磨紙を巻き付けたゴム製円板2個を取り付けて試験片を500回転 摩耗させる	化粧面の模様が残っている	模様が残っている	模様が残っている	模様が残っている				
		フローリングの日本農林規 格 複合フローリング 第四条 耐摩耗性 摩耗A試験 (回転数増、 床材メーカーは1000回転 の裏力値確認が多いため)	試験装置の回転盤に水平に固定し、研磨紙を巻き付けたゴム製円板2個を取り付けて試験片を500回転 (⇒1000回転) 摩耗させる。重りの重量は1kgとする。	化粧面の模様が残っている	僅かな模様取られ	僅かな模様取られ	僅かな模様取られ				
耐干割れ	寒熱繰り返し試験	JAS (合板) の日本農林規 格 第9条 特殊加工化粧合 板の規格 FWタイプ 3 (9) 寒熱繰り返し試験 準拠 (繰り返し増)	任意サイズの試験片を80±3℃の恒温器中に2時間放置した後、-20±3℃の恒温器中に 2時間放置する工程を2回 (⇒10回) 繰り返し、室温に達するまで放置する。 ※ 1 サイクル目: 試験片を80℃恒温器中に2時間静置後、-20℃恒温器中に2時間静置、 2時間室温に静置。 このサイクルを10回繰り返す。	試験片の表面に割れ、膨れ、変色 及び著しいつやの変化を生じないこ と。	著しい変化無し	著しい変化無し	著しい変化無し				
耐光性	耐光性促進試験	標準 JIS A 6921 退 色性試験試験 参考 (より 過酷な環境下にするために 時間延長)	退色性試験は、JIS L 0842に規定する紫外線カーボンフードメータを用い、試験片を40時間 (⇒96時 間) 露光した後、暗室中に24時間放置する。	JIS L 0804 に規定する変色用 グレースケール号と比較し、変色がな いを目視で確認する。また、表面 の割れ、膨れ及びひびわれ、目視に よって観察する。	5号 著しい変化無し	5号 著しい変化無し	5号 著しい変化無し				
耐熱性	湿熱試験	JAS (合板) の日本農林規 格) 3 (14) 湿熱試験	試験片の表面に沸騰水を滴下し、その上に0.5Lの沸騰水を入れた1L容器のアルミニウム 容器を20分間放置した後、乾燥した布で摩擦し、そのまま24時間放置する。 アルミニウム容器の設置個所に印をつけ、わかりやすくしておく。 注 アルミニウム容器は、底面直径160mmのふた付き円形平底のものとする。 	試験片の表面に割れ、膨れ、変色 及び著しいつやの変化を生じないこ と。	著しい変化無し	著しい変化無し	著しい変化無し				
耐汚染性 耐薬品性	汚染試験	JAS (合板) の日本農林規 格) 3 (19) (P) 汚染 A試験準拠 (延長)	一般市販品事務用青インキ、油性インキ (黒色)、赤色ク レヨンでそれぞれ幅10mmの線を引き、4時間 (⇒24時間) 放置した後溶剤 (⇒エタノール) または洗剤を布に含ませ てふき取る	青インキ 赤クレヨン 黒マジック	試験片の表面に色が残らないこと (導管部の着色は除く)	著しい変化無し	著しい変化無し	著しい変化無し			
			生活用品試験	JAS (合板) の日本農林規 格) 3 (20) 耐酸性試験 準拠 (薬品追加、延長)	試験片の表面に5%酢酸水溶液 (⇒毛染め、パイプ洗浄 剤、10%アンモニア) を一滴滴下し、時計皿で6時間 (⇒ 24時間) 被覆した後、ただちに水洗いし、24時間放置す る	毛染め パイプユニッシュ 10%アンモニア	試験片の表面に割れ、膨れ、剥が れ、軟化並びに著しい変色及びつや の変化を生じないこと。	著しい変化無し	著しい変化無し	著しい変化無し	
					薬品試験	耐アルカリ試験	1%水酸化ナトリウム	試験片の表面に割れ、膨れ、剥が れ、軟化並びに著しい変色及びつや の変化を生じないこと。	著しい変化無し	著しい変化無し	著しい変化無し
	耐酸試験	時計皿 6時間被覆後、水洗いし、24時間放置する	5%酢酸水溶液	著しい変化無し		著しい変化無し	著しい変化無し				
	耐シンナー試験		ラッカーシンナー	著しい変化無し		著しい変化無し	著しい変化無し				

※本性能データは弊社試験に基づく結果であり、この結果を保証するものではありません。